介護現場における生産性向上に資するKPI等の検討について

資料５-１

経緯

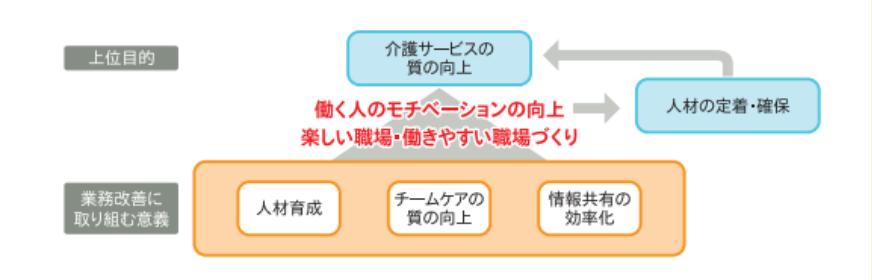
○ 今年度の介護保険法の改正により、生産性向上や経営改善支援等の取組促進に係る国及び都道府県の責務が明確化
○ 令和９年４月より、介護現場における生産性向上・経営改善支援等を検討する協議会の設置が義務化
○ 第10期介護保険事業（支援）計画における、介護現場の職場環境改善に向けた生産性向上・経営改善支援等に関する具体的な目標の設定及び重点的に取り組む事項の明確化の必要性
⇒こうした動向を踏まえ、介護現場革新会議において生産性向上に資するKPIを検討

KPI案

○ 都では、2050東京戦略の政策目標として「介護DX（利用者情報等の共有システムの導入）に取り組む事業者を80％に向上」と設定
○ 令和7年度厚生労働省KPI研究班が作成したロジックモデル＜参考資料1＞や「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン」を踏まえ、「介護サービスの質の向上」を最終目標に位置付け、その実現につながる「働きやすい職場環境が整った事業所の増加」を指標として改めて検討　＜別紙＞
⇒令和7年度第２回会議において、KPIの設定方法及び大枠の方向性について意見聴取

＜生産性向上ガイドラインより＞

「本手引きでは、介護サービスの業務改善の上位目的を「介護サービスの質の向上」とし、業務改善に取り組む意義は、人材育成とチームケアの質の向上、そして情報共有の効率化であると考えます。またこの３つの意義に資する取組を通して、楽しい職場・働きやすい職場を実現し、そこで働く人のモチベーションを向上することで、人材の定着・確保へつなげることを目指します」



＜令和７年度 第２回会議で頂いたご意見（要約）＞

【KPI設定に当たって留意すること】
・働きやすい環境とサービスの質向上の先に、利用者の安全・安心やQOL向上を位置付けることが重要。
・KPI達成だけでなく、業務改善が働きやすさ、離職率低下、残業削減、有給取得、サービスの質向上へ結び付いたかを評価すべき。
・「職員の負担軽減」についても目標として入れ込んだ方が良い。
・「業務改善が定着した事業所」の判断基準は、現場の意見を踏まえて検討する必要がある。
・業務改善の定着を測るアンケートでは、PDCAサイクルが組織内で仕組み化されているかを確認すべき。
・事業の計画件数がKPIの伸びを制限しないよう、設定方法を工夫する必要がある。
【KPI案について】
・テクノロジーを複数導入し、一部のみ活用している場合の数え方など、導入・活用の定義と集計方法を整理すべき。活用の判断を事業所の自己評価だけに委ねる場合、その基準について検討が必要。
・DX推進人材の育成事業や伴走支援の利用状況も、KPI候補として検討できる。

今回ご意見をいただきたい事項

生産性向上に係る取組の進捗・成果を継続的に把握し、今後の施策の検討・改善につなげるため、適切なKPI及びその把握・分析方法を検討する。

① 調査項目	生産性向上の取組状況や成果を適切に把握するため、どのような指標を設定することが適切か。 共通の検討基準：継続性（測り続けられるか）・合理性（目的につながるか）・簡易性（収集しやすいか）
② 調査項目の詳細・定義	各指標について、回答者による解釈のばらつきを防ぎ、実態を適切に把握するため、設問や用語をどのように設定するか。 例：「活用」をどのような状態として定義するか　等
③ KPIの数値の取得方法	設定した指標を継続的かつ効率的に把握するため、どのようなデータ収集方法が適切か。 例：事業所アンケート、既存の行政データ・実績報告等の活用
④ 調査対象・回収方法	都内の全事業所を対象とする中で、回収率を高め、実態を把握できる適切な回答者から回答を得るため、どのような方法が有効か。
⑤ 目標値	各KPIについて、どの程度の向上を目標とするか。 また、全指標に目標値を設定するか、主要な指標に限定し、その他はモニタリング指標とするか。
⑥ 分析の切り口	調査結果について、今後重点的に支援すべき対象や支援内容を明らかにするため、どのような単位で分析するか。 例：サービス種別、事業所・法人規模、地域など

今後の検討スケジュール

令和８年度第１回　：指標の詳細を検討
令和８年度第２回　：第1回で聴取したご意見を踏まえ、指標等を確定
※前回会議時には数値目標は令和９年度に対応としていたが、10期計画への記載が必要となったため令和８年度内に検討を実施

別紙

（案）生産性向上に資するKGI（目標数値）とKPI（中間目標数値）

介護サービスの質の向上

目標：職員の負担が軽減し、働きやすい職場環境が整った事業所の増加

KGI　生産性向上のガイドラインによる業務改善が定着した事業者の割合（アンケート）
＜参考値＞生産性向上推進体制加算を取得した事業所の割合（国調査）
生産性向上の取組の継続年数（国調査）

中間目標
課題を解決し目標を達成するための重要な行動と指標

KPI
【テクノロジーの導入・活用】
・介護テクノロジーの導入事業所数
・介護テクノロジーの活用事業所数

テクノロジーの導入・活用により、生産性向上の取組を開始

生産性向上セミナーの受講により、生産性向上の取組を開始

委員会の設置により生産性向上の取組を開始

KPI
【人材育成】
・生産性向上セミナーの視聴者数・受講事業所数
・機器導入前セミナー等の受講事業所数

導入前セミナー等の受講により介護テクノロジーを導入

KPI
【改善活動の実施】
・生産性向上委員会を設置している事業所数
・試用機器貸出件数

委員会の設置により介護テクノロジーの導入を検討

公開見学会への参加によりセミナーの受講や委員会の設置、テクノロジーの導入を検討

KPI
【取組の横展開】
・モデル事業所公開見学会への参加事業所数

現在
課題「**職員の負担軽減**」

※KPI選定の基準：継続性（継続した測定が可能）・合理性（行動と目的に因果関係がある）・簡易性（数値の収集方法が複雑でない）

※都の施策による効果が期待できない指標（国主催フォーラムの参加者数等）や目標数値の設定が難しいもの（補助金の活用実績額など）はKPIとして設定しない